

総合単元的な道德学習の進め方

昭和女子大学 押谷由夫

1 学校を人間教育の場にしよう

(1) 教師と子どもとの絶対的信頼関係

- ・教師の子どもへの絶対的信頼

(どの子もよりよく生きようとしている)

- ・子どもの味方になる

- ・ともによりよく生きようとする

(2) 人間らしい心が感じられる学校環境

- ・明るさ (笑顔、元気、まごころ) が満ちあふれている
- ・清々しい精神文化 (環境)
- ・知的好奇心
- ・一人一人を大切にする

(3) 人間としての成長、生きる喜びの実感

- ・人間として生きるとはということかの自覚を深める
- ・日常生活や各教科、道德、特別活動、総合的な学習の時間の学習を豊かな自分づくりとの関連でとらえる
- ・豊かな体験を充実させる

(人の役に立つ体験、人に喜んでもらえる体験、生きていることを喜ぶ体験よりよく生きることには憧れる体験、美に憧れる体験など)

- ・心の成長の記録を創る

2 一人一人の豊かな自分づくりを支え励まそう

※ 生き方の自立を柱に生活の自立、学習の自立を図るのが道德教育

このことを基本とした学年段階に応じた指導が大切

(1) 生活の自立

- ・生活習慣を身につける
- ・生活を楽しむ
- ・生活を創る

(2) 学習の自立

- ・学習の理解、習得（基礎学力の習得）
- ・学習を楽しむ
- ・学習を創る

(3) 生き方の自立

- ・生きる意味の自覚
- ・道徳的価値の追究
- ・生きがい感の感得と確立

3 総合単元的道徳学習を構想してみよう

(1) 何をねらいとするか

- ・道徳的価値に関する多様な学習がねらいとなる
(小目標も設定するとよい)

- ・まずは、重点目標や学級の目標などと関連させたねらいを設定する

(2) ねらいにかかわって各学習活動や日常生活のなかでどのような学習ができるかを押さえる

- ・だいたいどの期間を設定し、そのなかで行うように計画されている各教科や特別活動、総合的な学習の時間、日常生活での取組などで考えてみる

(3) さらに、どのような学習が必要かを押さえる

- ・ねらいにせまるために何が必要かを確認して、再度検討する
- ・その期間に予定していない学習も考慮に入れ、簡単に変更できそうな学習は指導時期等を変更する
- ・特に特別活動や総合的な学習の時間を工夫する
- ・家庭や地域社会での学習も視野に入れる

(4) それらをつなげてねらいに関する子どもたちの意識の流れを連続化できないかを考える

- ・ねらいに関する意識が連続していくように学習活動等をならびかえる。

(1 次の学習、2 次の学習というように構想していく)

- ・各学習活動の間をつなぐ工夫をする

朝の会や帰りの会の活用

掲示の工夫、学級通信等の工夫、ノートの工夫など

(5) その際、道徳の時間の学習を中心に位置づける

・全体の構想の中で道德の時間がかなめの役割（道德的価値の自覚）を果たすようにする（自覚を深めはじける学習）

4 総合単元的道德学習を子どもたちと一緒に創っていく

※ 家族とも一緒に取り組めるようにしたい

(1) 簡単なオリエンテーションをしよう

- ・ねらいについてみんなで話し合う
- ・おおよその学習計画を示す
(子どもたちの意見もとりにいれて修正していく)

・自分の目標も具体的に考え記入する

(2) 総合単元的道德学習用のノートを創る

- ・最初に計画表を貼り、この学習のねらいと留意事項、個人的課題や学習計画等も書いておく
- ・思ったことや考えたこと、感じたこと、取り組んだこと、分かったことなどを自由に書けるようにしておく
- ・共通した学習については、同じ様式で記入できるようにする（道德の時間や計画的な体験活動、教科における道德学習など）
- ・教師が必ず見て、励ましやアドバイスを与える。また、いろんな場面で書くように促す。理解を得てみんなに紹介もする。

(3) ねらいにかかわる道德学習が多様に行えるように工夫しよう

- ・子どもたちのねらいにかかわる気づきや考え、興味や関心等が連続的に発展するようにする
- ・朝の会や帰りの会、掲示、家庭や地域での学びなどを工夫する
(朝読書、1分間スピーチ、学級新聞づくり、新聞記事等の紹介、ドラマや映画の紹介、本の紹介、体験の紹介や問題・課題の投げかけ等)
- ・『心のノート』を活用する

5 これからの総合単元的道德学習の課題

(1) 評価と指導の一体化を図った総合単元的道德学習

- ・道德学習は長期的・総合的視点からの評価と指導が必要
- ・重点目標に絞って取り組む
(下位の目標を示し、その指導と評価の視点を明確にして計画する)

(一連の道徳学習における子どもたちの心の動きをよりダイナミックにするためのポイントを押さえ、それを評価基準とする)

(評価の記述欄を設け、課題をもその都度押さえておく)

(単元のくくりが終わった時点で、ねらいに対する一人一人の状態を評価する)

(個人と同時に学級全体の雰囲気等も評価し課題を押さえ日々の指導につなぐ)

(2) 行動の記録の項目に関する総合単元的道徳学習

・行動の記録に関して、計画的な指導が必要

・特に課題とする項目について総合単元的道徳学習を工夫する

(道徳の時間は、行動の指導ではない。行動の記録の項目に関しては、行動へとつなげる指導を意識する必要がある)

(具体的な行動形成を目標に掲げながら、道徳の時間で内面を耕し、特別活動や総合的な学習の時間で実践的・方法的学習、各教科で知的・実践的学習を重視しながら総合単元的に学習計画を創る)

(3) 学級の状態に応じた総合単元的道徳学習

・さまざまな学級の状態に応じた、学級経営的視点を強く出した総合単元的道徳学習を工夫する。

・日常的なかかわり、環境整備、学級での豊かな体験、家庭との連携などを重視して計画する

(4) 個に応じた総合単元的道徳学習

・各自が自分の課題を追究できるように、子どもたちが計画できる部分を盛り込んだ総合単元的道徳学習を工夫する

・共通的学习部分と個別的学习部分をミックスさせながら、子どもたち自信が道徳学習を発展させられるようにする

(5) 『心のノート』を活用した総合単元的道徳学習の工夫

・各項目についてまとめられている4ページを活用する

・日常的指導、各教科等での学習などが押さえやすく、意識の継続を図りやすい

・個に応じた指導も『心のノート』をもとに行うことができる

・他の項目との関連も押さえることができる

・家庭との連携、土曜・日曜・祝祭日での学習との関連も図りやすい
しているかを確認し、そのような役割が果たせるように位置づける